

**学習計画について**

来週から中間考査です。以下の点に注意して計画を立て、実行しましょう。

- ①本当に必要か? 実行できるか? →学習内容の精選。
- ②「いつ、どの教材を何ページまで」→具体的な計画。
- ③勉強した事項を書き出す。
→進捗状況の管理(「見える化」)。
- ④量や時間、種類を調整する。→①②の進化版学習。

C-passport にあらかじめ学習計画を書いておき、実行するのもいいでしょう。身の回りの整理整頓やスマホの管理など、学習に集中できる環境を作ることも必要です。夏季休業前に、より詳しく紹介しますが、今回は各自に合ったテスト対策を模索し、取り組んでください。

定期考査と大学入試の関係

中間考査は、単に何度かある考査の一つではありません。定期考査の結果は評価の対象となり、「評定」につながります。

1 評定とは

学年末には、学習到達度や日常の取り組みを総合して、科目ごとの5段階評価が行われます。以下の表は59期生のカリキュラムですが、60期・61期生も同様に各科目に評定がつきます。

2 大学入試における「学習成績の状況」

教科・科目		評定		
		第1学年	第2学年	第3学年
国語	国語総合	5		
	現代文 B		4	4
	古典 A			4
	古典 B		5	5

例 国語の学習成績の状況

$$(5 + 4 + 5 + 4 + 4 + 5) \div 6 = 4.5$$

(1年) (2年) (3年)

学校推薦型選抜は、共通テストの成績を必要としない「推薦Ⅰ」と、共通テストの成績を含めて総合判定を行う「推薦Ⅱ」に分かれます。どちらの場合も、3年間の学習成績の状況(全科目の評定平均値)が出願条件となる場合があります。4.3以上を求められることもあります。

そしてこの数字は「出願OK」の条件であり、合格ラインではありません。例えば、16科目に評定がつく1年生が4.3を取るためには、例えば以下ようになります。

評定5×5科目 評定4×11科目

評定5×7科目 評定4×7科目 評定3×2科目

そう簡単ではないことが分かります。国語や数学のように、複数の科目がある教科はもちろん、家庭基礎や保健など、1・2年次にしかない科目を疎かにしてはいけません。予習や復習、課題への取組など、日常の積み重ねがないと推薦入試を受験する機会を失うことになります。定期考査の成績が大学入試にもつながっていくのです。

大学入試の実際

ここまで、評定平均値と推薦入試との関係、日常の継続的な取組の重要性について説明してきました。ここで昨年度の鹿児島大学入試を例に、追加説明をします。

鹿児島大学・学部・学科	種別	成績基準	共テ
理・地球科学	総合・自	なし	5-7
水産・食品生命科学	推薦Ⅰ	4.3	なし
法文・地域社会・経済	推薦Ⅱ	4.3	4-5
教育・中等社会	推薦Ⅱ	4.1	6-7

*「総合・自」は自己推薦型選抜の意。

*「4-5」は「4教科5科目」の意。

大学入試における学習成果の評価は、「多面的・総合的評価」と呼ばれます。上記の総合型選抜や学校推薦型選抜においては、出願条件である「評定平均値」や「共通テスト受験科目」はもちろん、探究活動や校外活動等の活動実績も重要なポイントです。そして、こうした活動実績は、「一般選抜」でも評価の対象になる場合があり、重要度は増しています。「志望理由書」や「活動報告書」の提出に備えて、学校内外の活動で「参加証明書」等が発行された場合は大切に保管しておきましょう。各種検定の合格証明書やスコアも同様です。

言うまでもなく、3年間を通して学力を安定させなければ、「学習成績の状況」の基準値はクリアできません。もちろん、共通テストや個別学力試験への対応もできません。高校生活のあらゆる部分が「大学入試」につながっているということを意識してください。確かな学力を身に付け、必要な資格を取得し、有意義な活動に参加し、進路選択の幅を広げましょう。

大学入学共通テストまであと227日。頑張れ3年生!

「蟻の目 鳥の目」

1年1組 副担任 高山 正教

ある額を見て

3年生のある教室に「蟻の目 鳥の目」という文字の書かれた額が棚の上に飾られてあった。それを横目に3年生に地理の授業をしていたが、気になって仕方がなかったので帰ってから調べることにした。調べたところ「蟻の目（虫の目）」とは物事を細部まで見るのが大切であり、「鳥の目」とは物事を大局的に俯瞰して見るのが大切であるというものだった。そして、実はその目には続きがあった。それは「魚の目」であった。「魚の目」は、物事の時流を読むことだそうだ。魚だけに、まさに目から鱗というべきだろうか。

マルチスケール・ジオグラフィ

この「蟻の目 鳥の目」は、スケールを変えて物事を見ることの大切さを教えてくれている。地理でも、どのようなスケールで物事を捉えるかは非常に重要になってくる。「日本の稲作はどこで行われているか？」という問いを考えた場合、スケールによって解答が全く変わってくる。日本全国を5000万分の1の地図（地図上の1cmが50kmに相当）に描いて捉えると、稲作は北海道の北部・東部などを除く日本全国で行われていると言えるが、500万分の1の地図上（地図上の1cmが5kmに相当）では稲作は決して全国いたる所とは言えない。山地では稲作はしづらく、平野に集中しているからである。同じ日本の稲作分布や立地を考えるにしても、違ったスケールによる認識を混同して議論をしても無意味なものになってしまう。

また、地理では空間的なスケールに応じて時間的なスケールも対応させて見なければいけない。先の5000万分の1の地図上で稲作を考えた場合は、どのようにして稲作が伝来してきたのかという数千年単位の議論になるし、500万分の1の地図で考えた場合は室町時代後期、江戸時代中期といったCentury単位の時間が議論の幅になる。このように、空間や時間スケールは遠近法のようなもので、空間的に大きなスケールの問題については時間的にもそれに応じたスケールで考えていかねばならない。一つのスケールの議論だけでなく、様々なスケールで地理的事象を捉えるべしとした地理学者は、これをマルチスケール・ジオグラフィと呼んだそうだ。

勉強におけるスケール観

改めて3年生の教室に飾られていた額のことを先生方に尋ねたところ、勉強とは細部にわたって見逃さない丁寧さや細やかさと、全体を見渡して偏りなく勉強を進めていくという巨視的な姿勢が大事という戒めだそうだ。また、テストの際も同じことが言えて、解答をする中で問題の細部まで見つめる集中力と時間内に解答するための大局を読む姿勢が必要であるということであった。

さて、もうじき前期中間考査であるが、皆さんの勉強は目先の点数ばかりに目を凝らしてはいないだろうか？先の目標が大学進学という大きなものであれば、時間的スケールも長く費やさなければならないはずである。明日の授業やテストに向け「蟻の目」の如く細心の注意を払いつつも、その日限りの努力だけでは成果のスケールも小さい。時には「鳥の目」となり、目の前で行われている授業や行っている小テストが将来の大きな目標達成に不可欠である！という俯瞰的な目を持って励んでほしい。

受験学習の宝物

3年7組副担任 堀 康男

59期生の皆さんは、4月から進路実現のため日々高い意識を持って学習に対して積極的に取り組んでいると思います。しかし、この姿勢を一年間継続させていくことは大変難しく、やり遂げることなく途中で止めてしまう場合もあるかもしれません。つまり、受験学習とは簡単なものでなく、むしろ困難なことが多いということになります。だからこそ意欲的な学習姿勢を一年間継続できた時に、いわゆる宝物を手に入れたことになるのです。この宝物とは、大学受験のためだけのものでなく、場合によっては高校卒業後に一層の輝きを見せるものもあります。59期生全員が、この宝物を手にして中央高校を卒業することを期待しています。では「受験学習の宝物」とはどういうものなのか。次に、そのことについて述べていきたいと思います。

受験学習で得られるものは、数多くあります。一年間全力で学習することで無限に伸ばすことができる学力、辛い時期もお互いに支え合うことで芽生えるクラスメイトとの強い絆、これらは全て自分の努力で手に入れることができるものばかりです。宝物とはそういうものを指すこともありますが、それよりも受験に向けた「作業習慣」こそが「受験学習の宝物」だと考えます。「作業習慣」とは、簡単に言えば学校生活を規則正しく過ごすことです。朝早く（朝課外前）に登校し、当日の時間割と授業内容をしっかり確認した上で、午前・午後授業を集中して受ける、ただこれだけのことです。この「作業習慣」とは、タレントとして大活躍している中丸雄一さんの言葉です。中丸さんは、15歳から芸能活動を始め、高校生の時は中途半端な結果になることを懸念して仕事を優先し、学業を二の次にして過ごしたことの反省から24歳の時に早稲田大学人間科学部eスクール人間環境科学科に入学したと述べています。そして早起きして大学講義の受講と課題に取り組みながら、午後はきちんと仕事をするという生活を5年間きちんと続け、大学を卒業されたそうです。また大学卒業から10年たっても午前中の学習する習慣を「作業習慣」として動画編集や雑誌連載のイラストを行うことで、今までの芸能活動に加えて、新たな仕事と人生の豊かさに繋げているとも述べています。59期生の皆さんも今、全力で受験学習に取り組んでいる時間が将来、自分の可能性を大いに高めてくれる時間に置き換わることになるかもしれないのです。このことを「宝物」と言わずして何と言えいいのでしょうか。今、全力で取り組んでいる受験学習が、来年の進路実現だけでなく、それ以上の成功を収める機会を与えてくれるかもしれないのです。最後に59期生全員が「受験学習の宝物」を獲得できることを楽しみにしています。頑張ってください。